

社会福祉法人ひかり

平成27年度 事業報告

目次

【法人の理念】	・・・・・・・・	P. 1
【法人の使命】	・・・・・・・・	P. 1
1. 法人運営について	・・・・・・・・	P. 2
2. 経営会議について	・・・・・・・・	P. 3
3. 職員の退職・入職について	・・・・・・・・	P. 3
4. 新たな事業展開	・・・・・・・・	P. 3
I. 東戸塚地域活動ホームひかり		
1. 日中活動事業	・・・・・・・・	P. 4
2. 生活支援事業	・・・・・・・・	P.12
3. 相談支援事業	・・・・・・・・	P.17
4. おもちゃ文庫事業	・・・・・・・・	P.23
5. 余暇活動支援事業	・・・・・・・・	P.25
6. 地域交流事業	・・・・・・・・	P.26
7. 各委員会	・・・・・・・・	P.28
II. ラフォーレさくら	・・・・・・・・	P.30
III. 後見的支援センターとつかエコー	・・・・・・・・	P.37



【法人の理念】

「人間らしく生きること」

すべての人が、人間として、その人らしく生きることを支援します。

【法人の使命】

1. 地域の人々の、障がいへの理解を推進すること。
2. 利用者のQOL（生活の質）を高める支援を行うこと。
3. 利用者個々のニーズに応え、利用者自らが主人公となる活動を提供すること。
4. 職員は常に学ぶことを忘れず、自己研鑽に努めること。
5. 区内および近隣区の福祉・教育・保健・医療等の関係機関、団体と連携し、地域ケアシステムにおけるネットワーク形成の拠点となること。

1. 法人運営について

平成 27 年度の理事会・評議員会の開催状況は、以下の通りです。

	日 時	内 容
第 49 回 評議員会 第 51 回 理事会	平成 27 年 5 月 25 日 (月) 18:00～18:45 18:45～19:30	《議決事項》 ・平成 26 年度 事業報告案の件 ・平成 26 年度 決算案の件 ・平成 26 年度 監事監査報告の件
第 50 回 評議員会 第 52 回 理事会	平成 27 年 11 月 27 日 (金) 18:00～18:45 18:45～19:30	《報告事項》 ・グループホーム検討状況報告 《議決事項》 ・平成 27 年度 上半期事業報告案の件 ・平成 27 年度 中間決算案の件 ・平成 27 年度 第一次補正予算案の件 〈評議員会〉・理事選任の件 ・監事選任の件 〈理事会〉・評議員選任の件 ・新役員同意の件
第 53 回 理事会 第 51 回 評議員会	平成 27 年 12 月 4 日 (金) 18:00～18:15 18:15～18:30	《議決事項》 ・常務理事選任の件 ・理事長の職務代理者選任の件 〈理事会〉・理事長互選の件 〈評議員会〉・役員就任の件 ・理事長選任の件 《報告事項》 ・横浜市実地指導の件
第 52 回 評議員会 第 54 回 理事会	平成 28 年 3 月 28 日 (月) 18:00～18:45 18:45～19:30	《報告事項》 ・事故報告 ・「後見的支援センターとつかエコー」 横浜市監査報告 《議決事項》 ・平成 27 年度 第二次補正予算案の件 ・平成 28 年度 事業計画案の件 ・平成 28 年度 当初予算案の件 ・役員報酬規程一部改訂の件 ・就業規則一部改訂の件

2. 経営会議について

理事長、理事、施設長を構成メンバーとして、経営・運営上の課題検討に加え、新規事業の検討、理事会・評議員会の準備時期など、毎月1回開催しました。

3. 職員の退職・入職について

< 東戸塚地域活動ホームひかり >

退職

平成 27 年 5 月 事務員 (非常勤職員 : 男性)

12 月 生活支援員 (パート : 女性)

平成 28 年 3 月 生活支援員 (パート : 女性)

入職

平成 27 年 8 月 生活支援員 (常勤職員 : 男性)

< ラフォーレさくら >

入職

平成 27 年 7 月 生活支援員 (常勤職員 : 女性)

< とつかエコー >

入職

平成 27 年 4 月 あんしんサポーター (常勤職員 : 女性)

4. 新たな事業展開 - 共同生活援助（グループホーム）

法人内に設立検討チームを設け、ニーズ把握、入居者、目指すグループホームの概要、運営（資金収支等）、物件等の事業イメージを固めてきました。

平成 27 年 9 月 横浜市に対して設置意向を表明し、11 月に設置のヒアリングが行なわれました。平成 28 年 3 月末に横浜市より設置許可がおりています。

建設場所については、2 候補地の中から、機能性や利便性、住民理解、バックアップ施設となる東戸塚地域活動ホームひかりとの距離等を考慮し、戸塚区川上町に建設することを決めました。平成 28 年 12 月の竣工、平成 29 年 1 月の事業開始を目指して進めていきます。

◆ “東戸塚地域活動ホームひかり” から徒歩約 15 分（約 910m）

◆ 最寄駅 JR 東戸塚駅から徒歩約 11 分（約 880m）

◆ 定員 男性 6 名

◆ 居室 1 階 1 室 2 階 5 室

I. 東戸塚地域活動ホームひかり

1. 日中活動事業

(1) 利用実績

<平成 27 年度>

生活介護事業（定員 30 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
稼働日数	21	18	22	22	19	19	21	19	19	19	20	21	240	20
延利用者数	669	588	699	718	576	592	641	548	522	500	567	595	7215	601.2
利用人数/日	32	33	32	33	30	31	31	29	28	26	28	28	—	30.0
入浴利用人数	45	33	47	45	37	39	34	40	31	26	41	31	449	37.4
送迎利用人数	755	653	809	839	667	708	735	666	653	621	725	754	8585	715.4

地域活動支援センター事業（定員 10 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
稼働日数	21	18	22	22	19	19	21	19	19	19	20	21	240	20.0
延利用者数	50	39	46	49	38	46	51	48	42	36	44	44	533	44.4
利用人数/日	2.4	2.2	2.1	2.2	2	2.4	2.4	2.5	2.2	1.9	2.2	2.1	—	2.2
入浴利用人数	12	11	13	12	11	11	12	12	10	8	4	5	121	10.1
送迎利用人数	21	19	22	23	21	20	20	22	20	16	21	17	242	20.2

<平成 26 年度>

生活介護事業（定員 30 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
稼働日数	21	20	21	22	18	20	21	18	19	19	19	22	240	20
延利用者数	674	632	686	682	555	635	648	572	585	555	604	697	7525	627.1
利用人数/日	32.1	31.6	32.7	31.0	30.8	31.8	30.9	31.8	30.8	29.2	31.8	31.7	—	31.3
入浴利用人数	38	36	45	33	36	43	31	33	33	38	35	47	448	37.3
送迎利用人数	742	700	789	786	636	729	728	668	666	621	698	801	8564	713.7

地域活動支援センター事業（定員 10 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
稼働日数	21	20	21	22	18	20	21	18	19	19	19	22	240	20
延利用者数	44	46	50	48	38	44	48	39	46	38	42	54	537	44.8
利用人数/日	2.1	2.3	2.4	2.2	2.1	2.2	2.3	2.2	2.4	2.0	2.2	2.5	—	2.2
入浴利用人数	12	11	12	11	9	12	11	10	11	10	11	12	132	11.0
送迎利用人数	22	18	22	18	15	21	21	17	20	17	20	20	231	19.3

平成 27 年度は、新卒の利用者 2 名が加わり、4 月 1 日時点で利用者は計 67 名でした。年間を通じて、既卒者 1 名が加わり、6 名の方が退所されています。3 月末の時点で、利用者は計 62 名となっています（3 月 31 日現在）。平成 28 年度は、新卒の方を 1 名受け入れ、利用者数は 63 名となります。

平成 26 年度と比較すると、生活介護事業の延利用者数と 1 日の利用者数が減少傾向にあります。特に平成 27 年度の下半期に退所者が集中したことから、下半期以降に顕著に表れています。週 5 回利用されている方が退所されたことが大きな要因となっています。利用者数の減少により、送迎利用者数も減少傾向にあります。地域活動支援センター事業においては入浴利用人数が減っています。利用者の方の生活環境の変化から、入浴を利用されない方が増えたことが要因です。

平成 28 年度は、平成 29 年度の新卒生、既卒の方の実習を積極的に実施していくとともに、既存の通所者の利用日数の増加等も含め、検討していきます。

(2) 日中活動全体

平成 27 年度は、利用者の方々のニーズの多様化への対応と支援の質の向上の両立を目指すべく、長期的に日中活動が安定して維持できる体制づくりを開始する 1 年としました。継続性と柔軟性を備えた体制を構築するために、平成 27 年度の事業計画に、大きく下記の 5 つの取り組みを挙げました。

日中活動部における取り組み

- ①利用者の支援において、職員が相互に連携し、支え合うシステムをつくります。
- ②利用者の意志を尊重したデイサービスの内容の充実と拡大を行います。
- ③職員のスキルの向上を目指します。
- ④自主製品の販売を通じ地域への発信、地域との繋がりを深めます。
- ⑤業務の効率化を目指します。

1) 利用者の支援において、職員が相互に連携し、支え合うシステムをつくります。

ア. 柔軟な職員体制の構築

平成 27 年度は、常勤・非常勤職員の他、パート職員を含めた異動を実施しました。異動期間を半年としました。異動による業務・支援の引継ぎ等の混乱を防ぐため、グループの軸となる職員を複数残した上で、常勤・非常勤職員は 4 月～9 月、10 月～3 月とし、パート職員は 6 月～12 月、1 月～6 月と異動の時期をずらしました。職員が異動することにより、支援や職場環境においても様々な意見が出ており、各グループに変化が生じています。職員が多くの利用者の支援を習得することで、臨機応変な人員の配置が可能となりました。一方で、各グループの利用者数に対する適切な職員数の配置を検討する必要があります。また、看護師に関しては、医療的ケアの業務を最優先とすることに変更ありません。しかし、来年度は多くの利用者の様子を見るべき立場として、業務に携わる必要があると考えています。

イ. ボランティアの導入

平成 27 年度より、周辺の大学、戸塚区市民活動センター、社会福祉協議会などを通じ、ボランティアの募集を開始しました。現在、5 名の方に協力していただいています。ボランティアの方が入ることで、支援の質の維持に寄与するとともに、風通しのよい環境作りに影響を与えています。今後も、ボランティアの導入を推進することと同時に、ボランティアの業務内容などを整理することが課題です。

ウ. ケア会議・その他の会議

平成 27 年度より、日中活動会議をケア会議と名称を変えてスタートしました。今まで以上に、利用者の支援や取り巻く環境について考える事ができました。会議は年間を通して 9 回開催しました。各部屋の利用者ケースやヒヤリ・ハットの情報共有を主に話し合いました。上半期では、不穏時に突発的な動きや他害が見られる利用者のケースに関して、日中活動部の職員全体で意見をまとめ、ご本人が落ち着ける環境作りに取り組みました。下半期では怪我や事情により、安定してひかりに通所をする事が難しい方の支援方針について、相談支援部も交えた意見交換を行いました。また、将来的にひかりの利用を見据えた方々の受け入れについて職員全体で検討しました。

その他の会議について、各グループの会議については、2ヶ月ごとに開催する予定でしたが、各グループによってその開催期間や回数に差異が生じました。リーダー会議とナース会議においては、平成 27 年度は、開催していません。来年度は、会議の在り方を見直す必要があります。

2) 利用者の意志を尊重したデイサービスの内容の充実と拡大を行います。

ア. プログラムの見直し - グループ活動について

5 月から 7 月にかけて、他グループの利用者や職員の交流を目的とした合同グループ活動を実施しました。2 週間に 1 度のペース（現在計 5 回）で実施されたグループ活動では、4 グループ（カシオペア・フェニックス・ペガサス・ミルクィーウェイ）に在籍する利用者を各グループに振り分け、様々な活動（創作・運動・音楽等）を他グループの利用者や職員と一緒に体験・体感しました。

課題として、他グループの利用者に対する情報共有または情報交換が不十分であることや、各グループで活動の流れが違うため、活動時にズレが生じてしまう点が挙げられました。

下半期は、主に外部講師を招いてのプログラムを中心に月に 2 回ほど、利用者の交流する機会をつくりました。また、互いのグループの利用者が他のグループの活動に参加する機会も増えてきています。

イ. 土曜日の余暇活動の実施

平成 27 年度は、余暇活動支援事業として、年間 6 回の土曜余暇を企画しています。外出が 3 回、室内の活動が 3 回でした。どの活動も平日のプログラムでは実現が難しい内容のもので、土曜余暇の価値や意義を示すものでした。利用者の方・家族の方にも定着しつつあります。来年度も余暇活動支援事業として継続し

ていきます。

<開催日とプログラム>

開催日	プログラム
5月23日	みんなでクッキング&新緑を見に行こう
7月25日	カレーとスイカ割で夏を楽しもう
9月26日	原鉄道模型博物館と日産ギャラリーへ行こう
11月28日	ピザ作り&DVD鑑賞
1月30日	みんなで新年会をやる
3月12日	本格スイーツをつくろう

3) 職員のスキルの向上を目指します。

ア. 他施設への見学・研修の充実

年間を通じて、職員2名が外部研修に参加しています。研修の時間が通常の業務時間と重複することから、研修に行く時間を確保することが難しかったのが現状です。その他、ひかりにおいて講師を招いての内部研修(2回)に複数の職員が参加しています。また、近隣の法人型地域活動ホームの人事交流に1名が参加することができました。

イ. 新規事業への参加

平成27年度から開始したグループホーム設立の検討会(月に1回)に日中活動部から2名が参加しました。上半期は、ご本人・ご家族への意向調査の計画・実施、候補地の見学、過去にグループホームに従事したことがある職員にヒアリングを行いました。下半期は横浜市とグループホーム設立のためのヒアリングを実施しました。

4) 自主製品の販売を通じ地域への発信、地域との繋がりを深めます。

戸塚区内の、ひかりを含めた4事業所で連携して、自主製品の合同・委託販売を行いました。各事業所のネットワークに基づいた、お祭りやバザーに相乗りする形が主ですが、それ以外にも地下鉄「戸塚駅」や商業施設「サクラス」での定期販売にも参加させていただくなど、ひかりの自主製品を多くの方々に知っていただく機会をもつことができました。2~3ヶ月ごとに合同販売会議も開催しました。合同販売の名称も「T's くらふと+」に決まりました。土日に集中する販売での人員配置、事業所間の連携強化(スケジュール共有)が今後の課題です。

5) 業務の効率化を目指します。

ア. 各種フォーマットの整備

平成27年度は、個別支援計画書、評価表のフォーマットの修正を行いました。修正においては、サイボウズにて、職員から意見を聞いて実施しました。

イ. 各種データの電子化

平成 27 年度は、サイボウズのアプリを積極的に活用し、3 つのデータを電子化しました。管理の向上、情報の共有および業務の効率化を進めました。シフトの管理をサイボウズ上で運用できるよう検討しました。個別支援計画、評価表も電子上で閲覧できるよう、データの収集を進めました。

6) その他の取り組み

情報の発信

日中活動利用者、ご家族対象に「その人らしく」のお便りを 2 か月に 1 度、継続して配布しました。季節行事や土曜余暇の様子、普段行っている活動や一日外出等の紹介を行いました。文章よりも写真や絵を中心に載せ、目で見て楽しめ、その時の様子が伝わりやすいように工夫しました。平成 28 年度も利用者のやる気や自信に繋がるよう、配布していくとともに、新しいコーナーとしてポエムや利用者が撮影した写真等も掲載していきたいと考えています。

(3) 実習生の受け入れ

平成 27 年度は、高等部 3 年生 2 名と 2 年生 1 名、既卒者 2 名の計 5 名を受け入れました。

No.	実習			性別	学校名<学年>	居住区	目的
	月	所属	期間				
1	6 月	ペガサス	2 日間	女性	上菅田特別支援学校 高等部 3 年	保土ヶ谷区	進路
2		カシオペア /DEM	6 日間	男性	既卒	戸塚区	通所
3	11 月	カシオペア	3 日間	女性	平塚ろう学校 高等部 2 年	戸塚区	進路
4		フェニックス	3 日間	男性	三ツ境養護学校 高等部 3 年	戸塚区	進路
5	2 月	DEM	5 日間	男性	既卒	戸塚区	通所

(4) 各グループ

1) DEM

平成 27 年度は、2 名の利用者が退所しました。計 9 名（男性：5 名、女性 4 名）が所属しています。また、将来的にグループホームの利用を見据えた利用者には、月 1 回継続してショートステイを利用しています。

9 月 10 日～11 日の 1 泊 2 日にて今回初めてとなる宿泊旅行を利用者 11 名、引率職員 4 名で行いました。

職員間の連携として、他グループの職員に 10 月から DEM に入ってもらい、工房の業務を覚えてもらいました。

活動に関しては、10月以降移籍された方や怪我により長期間お休みされる方がいた為、日々参加される利用者の人数が少ない状態になっていました。その為、職員間で話し合いの場を設け、成形するパンの種類や量を調節して活動に負担がかかり過ぎないように配慮しました。

2) カシオペア

平成27年度は、新規利用者2名（うち1名は既卒）の方を受け入れ、3名の方が退所されています。計19名（男性：9名、女性：10名）となります。

平成26年度の創作活動のテーマでもあった自主製品の質の向上に努め、新たに製品の紹介シールを作りました。皆で商品の紹介文を考え、自分たちの手でシール貼りを行いました。商品を手にする方へどのように自主製品を作っているのか、知ってもらう機会となりました。

プログラムの拡大・充実という観点からは、エアロビや絵画教室等、講師を招いたプログラム提供を継続して行いました。利用者・先生ともに、名前を呼び合い笑顔で活動に取り組む姿が見られました。また、近隣の地区センター（体育館）を借り、他グループと一緒にバスケットや卓球を行う機会も作りました。

3) ペガサス

平成27年度は、新規利用者男性2名（週1利用者1名・週2利用者1名）を受け入れ、男性1名が退所されています。計10名（男性：5名、女性：5名）となります。また、6月に上菅田特別支援学校の生徒1名の実習受け入れを行いました。

活動に関しては、体重増加に配慮した運動や、拘縮や変形予防のためのマッサージ・ストレッチなど、体を動かすプログラムをメインに取り組みました。その他には特別支援学校へ自主製品の納品、川上保育園へDEM製品の配達などを活動として取り入れ、近隣の社会資源への繋がりや、利用者の役割意識や達成感につながる活動になりました。また、マーブリングやプラ板など、他グループと連携した自主製品作りにも取り組みました。

1日外出については、10月に横浜ラポール、3月にあーすプラザに行きました。

4) ミルキーウェイ

平成26年度同様6名（男性6名）の方が所属し、引き続き木工を中心とした活動に取り組みました。これまで環境からの刺激軽減の為に壁向きで活動していた利用者も、グループとしてより一体感が持てるよう、部屋の中心に向きを変えてもらい、木工製品の削りも少しずつですが行うようになりました。

転居による生活環境の変化や、車椅子・補装具が新調された利用者もいましたが、その都度、相談支援部と情報を共有し連携しました。一日外出は利用者の希望を伺って、前期は新江の島水族館へ、後期はラーメン博物館に行きました。

11月から休みが続いている利用者がいますが、日中活動部全体で話し合いを重ね相談支援部も交えて支援の方向性を探りました。ご家族との面談も実施し、下半期の後半は毎日顔を見せに来所するようになりました。

5) フェニックス

平成 26 年度同様、17 名（男性：11 名、女性 6 名）の方が所属しています。活動の主軸として、缶つぶしを継続してきました。潰す缶の量を増やすことで、意欲の向上に努めてきました。部屋のレイアウトを活動時に変えることで、作業に集中できる環境を整えてきました。

創作活動では、カシオペアの付箋づくりやビーズ通しの制作に参加しました。一日外出を実施し、5～6 月にかけて、「横浜市電保存館」、2 月～3 月にかけて「OrbiYokohama」に行くことができました。他グループとの合同プログラムなど、利用者同士の交流も積極的に実施しました。

(5) 事故/ヒヤリ・ハット

1) 事故

平成 27 年度は、計 7 件の事故が発生・報告されました。

以下、事故の中から、抜粋して掲載していきます。

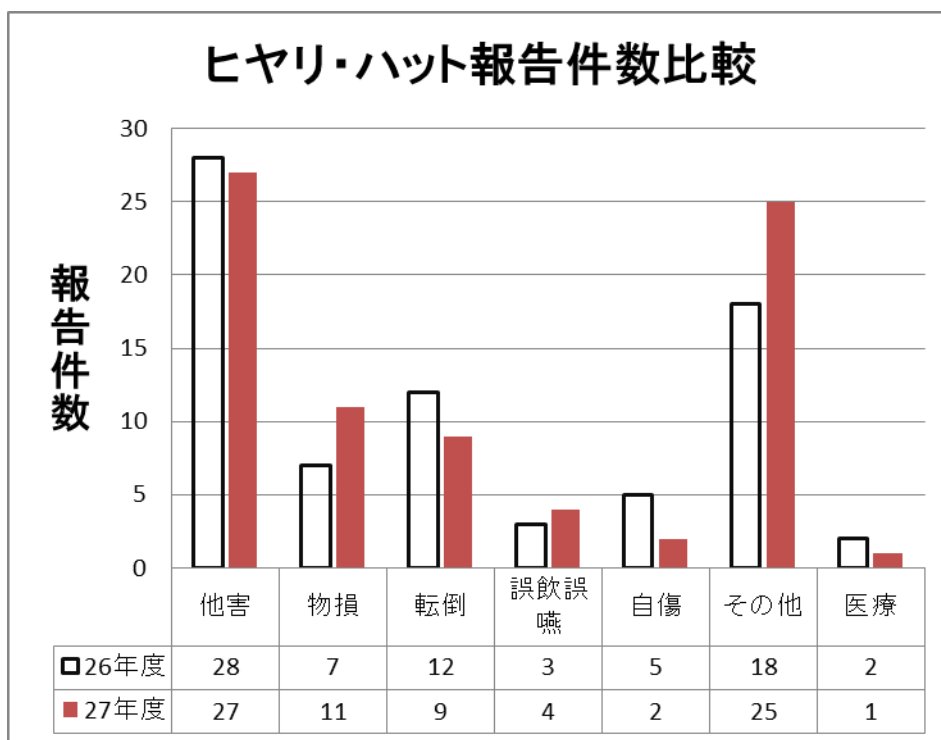
- ・デイサービス中、合同プログラムでの転倒事故
→普段関わりがない職員が支援に当たる際に、情報共有をせずに活動を始めてしまった。今後、情報共有の機会を持った上で関わることを話し合った。
- ・デイサービス中、活動時に転倒による骨折
→職員が 3 名いた中、誰も転倒の瞬間を観ている人がいなかった。室内での人員配置を再度考える事で、再発を防ぐとともに、職員間で意識の向上を図ることとしている。

2) ヒヤリ・ハット

平成 27 年度は、計 79 件(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末)のヒヤリ・ハットが発生、報告されました。平成 26 年度よりも件数としては多く上がっていますが、単にケースが増えたのではなく、ヒヤリ・ハットに対する職員の意識が高まった結果と捉えています。件数のうち、多かったものは他害(27 件)、その他(25 件)ですが、どちらにも言えるのは、情緒の安定を図るための工夫や、突発的行動に対応できる職員配置、環境を模索していく必要があります。

以下、ヒヤリ・ハットの中から、抜粋して掲載していきます。

- ・関わりの中で、他利用者から注意されたことに情緒が不安定になり、洗濯籠を蹴ることがあった。職員と 2 人で話をすると落ち着かれた。
- ・暑いとの訴えがあり、室温の調整を図るもイライラされ、他利用者、職員に手が出るがあった。ひかりからご本人が持参されていなかった T シャツを提供することで落ち着かれた。



(6) 学習・研修参加

平成27年度は、新人職員を対象に研修への参加を実施しました。参加した研修は下記の通りです。

No	開催		研修名	場所	参加者
	年	月			
1	平成 27 年 度	7	中堅職員のための接遇研修	ウイリング横浜	平
2		10	社会福祉援助技術研修Ⅲ アセスメント技術	ウイリング横浜	榎本
3		11	初任者研修 社会人経験者編2コース	ウイリング横浜	榎本
4			障害者支援基礎研修	ウイリング横浜	榎本
5		12	サービスレベルアップのための 記録の書き方、読み方、研修	ウイリング横浜	榎本

2. 生活支援事業

(1) 利用実績

『一時ケア』

平成 26 年度と比べて、延べ時間が 16.5 時間 (0.3%) 減少しました。

平成 26 年度から始めた、8 月のデイサービス夏休み期間中の通常受付について、登録者に情報が行き渡り始めたようで、利用依頼および利用時間が増加しました。

平成 26 年度から、放課後等児童デイサービス等の地域資源の急増の影響もあり、依頼数の減少傾向が見られていますが、その分、お断り数を減らすこともでき、平成 26 年度と比べて、お断り時間数が 83 時間 (8.8%) 減少しました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
～2時間	65	64	85	77	59	67	77	71	66	62	67	77	837	69.8
～4時間	49	42	36	43	45	34	38	40	42	29	39	34	471	39.3
～6時間	15	22	16	25	31	16	16	11	22	19	14	23	230	19.2
～8時間	14	12	12	15	23	9	15	19	13	12	16	13	173	14.4
8時間～	4	3	3	1	5	4	9	4	1	2	4	3	43	3.6
延べ件数	147	143	152	161	163	130	155	145	144	124	140	150	1754	146
延べ時間	461.0	452.0	431.0	496.0	601.5	380.0	503.0	457.0	454.0	372.5	434.5	455.0	5497.5	458.1
平均時間	3.1	3.2	2.8	3.1	3.7	2.9	3.2	3.2	3.2	3.0	3.1	3.0		3.1
未就学児	10	7	13	4	7	12	13	6	10	7	15	6	110	9.2
18歳以下	37	32	33	38	41	28	33	34	36	31	32	41	416	34.7
19歳以上	38	42	40	43	41	40	42	42	39	30	40	35	472	39.3
デイ利用者	15	18	15	20	19	18	21	19	19	13	18	13	208	17.3
戸塚区	52	44	53	53	57	45	56	52	52	43	56	48	611	50.9
保土ヶ谷区	11	14	13	11	9	15	12	9	11	7	6	10	128	10.7
泉区	5	3	3	5	3	4	3	5	3	2	5	5	46	3.8
栄区	3	4	3	3	5	2	3	3	4	2	4	2	38	3.2
港南区	7	11	11	8	9	8	9	8	9	6	9	12	107	8.9
その他区	7	4	3	5	5	6	3	4	5	8	6	5	61	5.1
市外	0	1	0	0	1	0	2	1	1	0	1	0	7	0.6

【平成 26 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
～2時間	51	68	66	66	50	75	67	60	71	61	67	56	758	63.2
～4時間	55	47	51	49	42	37	47	41	38	25	40	54	526	43.8
～6時間	17	18	12	21	34	19	19	15	28	15	16	29	243	20.3
～8時間	14	8	13	18	18	9	15	17	11	5	5	10	143	11.9
8時間～	7	7	4	7	9	2	1	2	3	4	1	5	52	4.3
延べ件数	144	148	146	161	153	142	149	135	151	110	129	154	1722	144
延べ時間	494.0	467.0	445.0	553.5	594.0	407.0	463.0	440.0	474.0	313.5	347.5	515.5	5514.0	459.5
平均時間	3.4	3.2	3.0	3.4	3.9	2.9	3.1	3.3	3.1	2.9	2.7	3.3		3.2
未就学児	8	5	10	5	10	8	15	9	19	11	17	15	132	11.0
18歳以下	47	41	43	57	51	40	49	38	41	28	29	36	500	41.7
19歳以上	41	41	33	37	30	43	38	36	42	29	34	36	440	36.7
デイ利用者	19	21	17	16	11	19	18	15	18	12	14	15	195	16.3
戸塚区	61	55	52	68	61	60	70	51	63	43	47	56	687	57.3
保土ヶ谷区	11	9	11	10	10	11	10	9	14	10	12	13	130	10.8
泉区	5	4	4	4	3	4	2	3	5	3	6	3	46	3.8
栄区	3	4	3	4	2	4	3	4	3	1	1	1	33	2.8
港南区	7	6	7	8	10	6	8	8	11	6	5	6	88	7.3
その他区	8	8	9	5	5	6	8	8	6	5	8	6	82	6.8
市外	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	6	0.5

『ショートステイ』

平成 26 年度と比べて、延べ泊数が 123 泊 (29.7%) 増加しました。5 月、9 月、1 月を除き、予定利用泊数の 40 泊を上回りました。

複数の候補日がある依頼や、日付指定のない依頼が増えたことで、受け入れ体制の調整がしやすくなったことが要因として考えられます。

グループホーム入居に向けての練習や、保護者の入院や体調不良による利用が目立ちました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実利用者数	33	31	35	42	38	32	38	42	42	25	34	36	428	35.7
18歳以下	7	7	6	8	10	5	8	8	10	4	9	8	90	7.5
19歳以上	26	24	29	34	28	27	30	34	32	21	25	28	338	28.2
デイ利用者	12	13	11	15	13	12	14	16	15	11	11	10	153	12.8
1泊	27	23	26	33	26	27	31	35	32	19	24	29	332	27.7
2泊	1	6	4	5	5	4	4	4	3	5	6	5	52	4.3
2連泊	5	2	6	3	6	1	3	2	6	1	5	1	41	3.4
3泊	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	4	0.3
3連泊	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
4連泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1
延べ泊数	42	39	46	52	51	37	45	50	53	31	46	45	537	44.8
戸塚区	16	18	20	29	25	18	23	25	24	14	19	19	250	20.8
保土ヶ谷区	3	4	3	3	4	4	4	4	5	4	5	5	48	4.0
泉区	2	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	3	10	0.8
栄区	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	33	2.8
港南区	2	4	5	3	3	2	4	6	5	2	2	3	41	3.4
その他区	8	2	4	3	3	4	3	1	4	3	5	4	44	3.7
市外	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0.2

【平成 26 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実利用者数	27	33	27	29	29	30	28	27	33	27	30	30	350	29.2
18歳以下	3	5	3	5	10	6	7	6	8	5	7	4	69	5.8
19歳以上	24	28	24	24	19	24	21	21	25	22	23	26	281	23.4
デイ利用者	13	14	12	12	8	12	7	10	12	10	9	11	130	10.8
1泊	21	28	22	24	25	24	24	22	29	25	25	23	292	24.3
2泊	3	3	3	3	3	4	2	1	3	2	3	4	34	2.8
2連泊	3	2	2	2	1	1	1	3	1	0	3	2	21	1.8
3泊	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0.2
3連泊	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0.2
延べ泊数	33	38	32	34	33	37	33	33	37	29	37	38	414	34.5
戸塚区	17	19	16	18	17	18	22	17	19	16	19	19	217	18.1
保土ヶ谷区	3	4	3	2	2	4	1	3	4	3	3	3	35	2.9
泉区	1	1	1	1	2	1	0	0	0	0	1	0	8	0.7
栄区	2	1	1	2	1	1	0	1	2	1	1	1	14	1.2
港南区	0	3	2	2	4	1	1	2	3	3	2	4	27	2.3
その他区	4	5	4	4	3	5	4	4	5	4	4	2	48	4.0
市外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1

(2) 登録者数と傾向

新規登録受付者数は、53名でした（平成26年度は56名）。現在の総登録者数は936名となりました。

傾向としては、療育センターでのアナウンスを聞いた、通園を始めたばかりの未就学児の登録が目立ちました。なかには、4歳未満の登録希望もありました。登録理由として、「遊びの場として利用したい」という声が増えました。また、平成26年度に引き続き、個別支援級に通学している方や、他地域活動ホームからの紹介、相談支援部経由による登録がありました。

年齢別内訳と居住区別内訳は下記の通りです。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
未就学児	0	3	5	2	3	3	3	1	1	1	4	2	28
18歳以下	3	1	1	2	2	1	0	2	2	0	0	1	15
19歳以上	2	0	0	1	1	2	0	0	1	2	0	1	10
延べ人数	5	4	6	5	6	6	3	3	4	3	4	4	53
戸塚区	3	3	4	4	4	4	2	1	2	1	3	3	34
保土ヶ谷区	0	1	1	0	2	2	1	1	1	0	0	0	9
泉区	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4
栄区	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
港南区	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
南区	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
金沢区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

(3) 支援内容について

“遊び”を通して、利用者が持っている能力を最大限に発揮し、それを生活の場面に般化することができるよう支援しました。そのために、登録面談の際に、学校や通所先での利用者の取り組みや課題を伺ったり、ご利用の都度、現在、困っていることや伸ばしたい部分をご家族から教えていただくことで、ニーズに直結した支援と、利用者の成長に合わせた支援を行うことができました。

医療的ケアの必要な方の受け入れについては、平成26年度に引き続き、日中活動部と連携し、看護師の協力体制を整えた上で対応しました。受け入れ時間や曜日に制限があるためか、利用に繋がる方が少ないことが課題となっています。また、別室（2階）での受け入れも引き続き行いました。利用者同士の相性などから安全面を考慮し、別室では主に、未就学児や肢体不自由児・者の受け入れを行いました。

(4) 事故/ヒヤリ・ハットについて

平成27年度は、事故5件（支援中5件）、ヒヤリ・ハット24件（支援中7件、※その他17件）が発生しました（※その他：受付連絡ミス、給食の提供形態ミスなど）。

ショートステイ中の利用者の死亡について

平成 28 年 3 月にショートステイを利用している方が、就寝中にうっ血性心不全で亡くなりました。この事故を受けて、職員間で話し合い、職員は不測の事態に直面することを想像し、更なる責任感と緊張感を持って業務にあたる必要があると感じました。

横浜市がなぜ制度によらない一時ケアやショートステイのサービスを展開するのでしょうか。障害者手帳を取得できない、障害者福祉サービス受給者証の障害支援区分によるサービス決定、利用者ニーズと提供体制のギャップ等々から、サービスを利用したくても利用できない現行制度の狭間で困っている人を支える仕組みが必要だったのではないのでしょうか。福祉の課題は、制度に基づいたサービスだけでは解決が図られないケースがあります。

今回の件を教訓にして、職員一人ひとりが生活支援事業について、目的とその意味、必要性を考え、この事業を後退することがないよう努めていきます。

以下、事故の中から、抜粋して掲載しています。

引き続き、職員間で情報を共有し、留意していきます。

- ・一時ケア中、利用者を単独で外出させた。
→職員の受け入れ体制の問題。日々、利用者の状態が変化することを踏まえ、受け入れ体制も変化させていく必要があることを話し合った。
- ・ケアルーム個室のドアを破損させた。
→利用者にとって最適な環境を提供できなかったことが問題。受け入れ環境について、見直しを行った。

(5) 部門内連携

平成 26 年度に引き続き、月に一度の生活支援部会議を開催しました。理事長と施設長も継続して参加しました。内容としては、実績報告や事故/ヒヤリ・ハット報告のほか、新規登録者についての情報共有、既登録者についての現況報告を行いました。なお、この会議で出た提案事項等は、職員会議において、全職員に情報共有しました。また、平成 26 年度に作成した「TC・SS 登録面談者 幼児リスト」を引き続き活用し、おもちゃ文庫と併用利用される方の情報について、職員間で円滑に共有しました。

(6) 部門間連携

一時ケア・ショートステイの対応に関しては、日中活動部にも協力してもらい、対応しました。発作や食物アレルギー等、特別な配慮が必要な利用者については、受け入れの前に、申し送りを行いました。

平成 26 年度に引き続き、相談支援部を経由した、他地域活動ホームからの紹介による登録がありました。また、相談支援部で関わっている利用者については、適宜、連携をとる事により、利用者の生活状況や通学・通所状況等も捉えるように努めました。

一方で、長期休暇中の過ごしに関する悩みや、複数の大人と話をする場を求めている方など、連携が必要だと思われるケースは、相談支援部に繋げました。また、利用者のケースネットワーク会議で得た情報の共有も行いました。

なお、緊急利用の受け入れの際には、日中活動部だけではなく、相談支援部にも協力を依頼し、受け入れ体制を整えるように努めました。

(7) 学習・研修参加・その他

平成26年度に引き続き、利用者の学校や放課後の過ごし方や取り組みについて学ぶため、瀬谷養護学校と放課後児童デイサービスのハッピーテラス戸塚を見学しました。また、保土ヶ谷養護学校から、教員研修の依頼があり、実習の受け入れを行いました。一時ケアにおける、児童の放課後の過ごしについて、共有をする機会となりました。

戸塚区地域自立支援協議会の児童分科会において行われた、放課後等児童デイサービス事業所との意見交換会に参加し、放課後等児童デイサービスでの児童の過ごしや、各事業所の特色や課題などを知ることができました。

登録面談の際にご家族に記入していただく、フェイスシートの内容を検討し、新規登録者に配布を始めました。実際にご家族に記入してもらうことで、記入しづらい部分が見え、随時、修正を行いました。そして、平成28年度初めに、全登録者に送付する準備を行いました。

職員としての資質向上、能力・技術・知識（ケアマネジメント、コーディネート、カウンセリング等）の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No	開催		研修名	場所	参加者
	年	月			
1	平成27年	12月	発達障害の子とハッピーに暮らすヒント ～4人の発達障害の子育てから学んだこと～	戸塚公会堂	森川
2			ひばりセミナー「応用行動分析を活用しよう」	ひばりが丘学園	橋本

3. 相談支援事業

(1) 一次相談支援機関

相談員3名体制で、障害児・者およびそのご家族の地域生活を支えるための相談支援を行ないました。平成26年度と比較すると、相談件数やケア会議開催回数は減少しています。

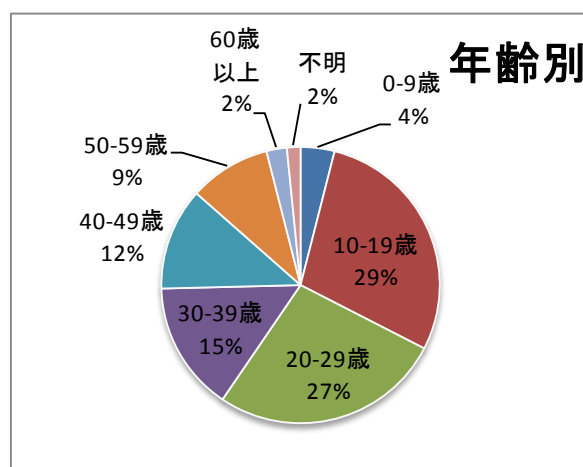
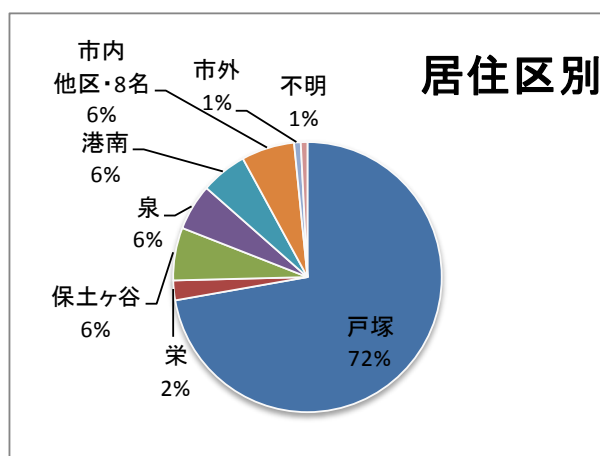
〈相談件数〉 ()内は、平成26年度の実績

年	平成27年									平成28年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	54	43	58	50	48	57	45	55	33	60	75	71
累計	310 (405)						339 (300)					
	649 (705)											

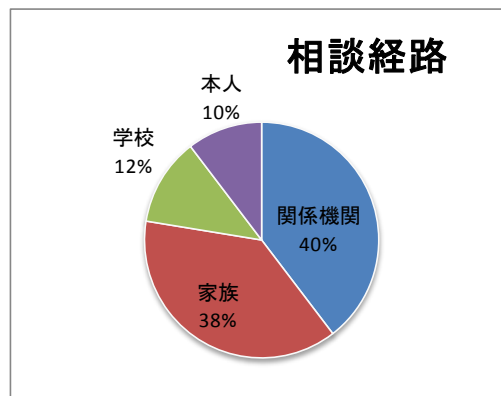
〈ケア会議 開催状況〉 ()内は、平成26年度の実績

年	平成27年									平成28年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開催数	5	3	2	3	3	3	1	3	1	3	4	6
累計	19 (21)						18 (41)					
	37 (62)											

平成27年度の相談を受けた実人数は126名（平成26年度 ±0名）でした。平成26年度と比較して、全般的な割合に大きな増減はありませんでした。平成26年度との比較では、居住区別では、区内が7名減少、他区の方が増加しました。年齢別では、10-19歳が7名減り、30-39歳が4名増加しています。



実人数 126 名のうち、平成 27 年度新規で相談を受けた方は 58 名で、平成 26 年度より 8 名増加しています。新規に相談を受けた方の相談経路では、関係機関からの相談がやや減少し、ご家族や学校経由での相談が増えています。



(2) 計画相談支援

平成 27 年度、新たに 1 名の方の計画相談を受け、計 10 名の契約者数となっています。新規のご依頼は現在受けられない状況となっており、ご家族や関係機関からの計画相談についてのお問い合わせには、「サービスについての意向確認書」での提出をお願いするとともに、計画相談ではない形でどのようなお手伝いができるのか？という視点で支援方針を検討しました。

以下の表は年間の回数です。ご本人の状況変化により、モニタリング月以外での対応が必要になった方も多く、年間を通して動きがありました。

電話	訪問	来所	その他	合計
147	69	10	4	230

(3) 関係機関・関係施設との連携・協力

1) 「子育てふれあい交流会」

主に医療的ケアを必要とする低年齢の重症心身障害児（小学部以下）のご家庭を対象として、南部児童相談所と共催で、平成 23 年度から「子育てふれあい交流会」を開催してきました。平成 26 度からは戸塚区役所こども家庭支援課との共催となり、多機能型拠点 郷にも運営にご協力いただきました。

平成 27 年度は、上半期 1 回、下半期 1 回の計 2 回で計画していました。7 月の回は、計 30 名と多くの方にご参加いただきましたが、11 月については、学校行事と重なってしまったこともあったのか、申込が 0 名となり、中止としました。

<開催>

回数：年 1 回（平成 27 年 7 月） ※11 月は中止

場所：東戸塚地域活動ホームひかり

時間：10:30～12:30 ※会場を 14 時まで開放

No.	開催日	内容	講師	狙い	参加人数
1	7 月 25 日（土）	ミニコンサート	オカリナ奏者 渡辺ゆう様	・音楽セラピー ・お子さんとご家族と一緒に 音楽を楽しむ	10 家族 30 名

2) コーディネーター業務

教育機関からの施設見学や施設研修（社会体験）の依頼に対応しています。

年	月	参加者
平成 27 年	4月	施設見学：上菅田特別支援学校 教員1名来所
		施設見学：東俣野特別支援学校 校長、教員2名来所
	5月	施設見学：平塚ろう学校 教員1名来所
	6月	施設見学：保土ヶ谷養護学校 生徒8名、教員6名来所
	7月	施設見学：東俣野特別支援学校 保護者2名来所
		卒後支援：本郷特別支援学校 教員1名来所
		卒後支援：横浜国立大学附属特別支援学校 教員1名来所
		施設研修：東俣野特別支援学校 教員2名来所
	8月	卒後支援：鎌倉養護学校 教員5名来所
		施設研修：保土ヶ谷養護学校 教員2名来所
		施設研修：東俣野特別支援学校 教員1名来所
		訪問：泉区重心部会主催 プール&バーベキュー 見学
	9月	施設見学：本郷特別支援学校 保護者2名来所
		施設見学：戸塚区役所 実習生来所
	10月	施設見学：本郷特別支援学校 保護者15名来所
		施設見学：中村特別支援学校 保護者6名、教員1名来所
	11月	施設見学：保土ヶ谷養護学校 小学部PTA見学会
		施設見学：ソーシャルケア インクル 職員5名来所
進路学習：中村特別支援学校 生徒2名、教員3名来所		
12月	施設見学：当事者1名、戸塚区ケースワーカー1名来所	
	施設見学：港南台ひの特別支援学校 保護者1名来所	
	施設見学：東俣野特別支援学校 保護者5名来所	
平成 28 年	1月	施設見学：当事者1名来所
		施設見学：本郷特別支援学校 保護者1名来所
	校外学習：川上北小学校 児童（4年生×4クラス）、担任来所	
2月	施設見学：領家中学校 教員1名来所	

川上北小学校4年生の施設見学も平成27年度で3回目となりました。事前の先生との打ち合わせの中で、「施設見学だけではなく、障害についての理解を深めたい」とのご意向をいただいた事から、平成27年度は障害のある方の生活場所の一つとして、グループホームについてスライドで紹介をした後、利用者さんのインタビュー動画を見ていただきました。グループホームに入居しようと思った理由や地域での生活など、とても貴重なお話を聞く事ができました。

地域活動ホームの紹介、缶つぶし体験、生徒への記念品贈呈などの場面では、各グループの利用者にご協力いただきました。

(4) 相談支援部内、部門間の連携

部内の連携としては、相談支援部の会議を毎月 1 回 開催しました。困難ケースの相談事案については、施設長や他の相談員からのアドバイスを受けながら支援を進めました。サイボウズでの情報共有や新規ケースについては、可能な限り複数名で対応することなどを心掛け、相談員同士で日常的にケース協議ができる体制を作りました。

部門間の連携では、実習生の受け入れ、施設見学、デイサービス利用契約などについて、日中活動部と連携して進めました。緊急に入る相談では、一時ケア&ショートステイに繋ぐ必要のあるケースも多く、生活支援部との連携や協力を行いました。

(5) 戸塚区地域自立支援協議会の運営

戸塚区地域自立支援協議会が立ち上がり、平成 27 年度で 7 年目を迎えました。

現在、担当者会と 4 つの分科会「リスクを考える」・「地域啓発」・「地域を創る」・「児童」、2 つの連絡会「グループホーム連絡会」・「日中情報交換会」で構成されています。

平成 27 年度の担当者会は、「地域防災拠点との連携について」「計画相談支援について」「横浜市の個別支援教育について」「障害者差別解消法への取り組みについて」というテーマでの講演やグループでの意見交換を行いました。1 月の事例検討会では 58 名の方に参加いただきました。事例検討を通して、普段顔を合わせる機会の少ない方々とも意見交換を行う事ができました。

分科会と連絡会の活動には、相談支援部以外の職員も参加しました。

分科会	参加者	平成 27 年度 活動概要
リスクを考える	岩崎	<ul style="list-style-type: none">・地域防災拠点運営委員学習会にて、避難所における障害者への配慮についての講演。・台風、インフルエンザ、食中毒、積雪など広くリスクに関わる情報交換。
地域啓発	佐山	<ul style="list-style-type: none">・4 年目を迎える「戸塚区障がい者美術館計画 みんなちがっていいんだよ」をダイエー東戸塚店を会場に開催。・開催の周知の為、当事者の方が校長会で P R したり、近隣の企業や公共施設等に出向いて周知を行った。
地域を創る	若杉	<ul style="list-style-type: none">・「地域課題とは何か？」を考えることをテーマとして活動。・メンバーからの事例報告、地域ケアプラザのコーディネーターお呼びし、事例や課題について報告と情報交換を行った。
児童	荒森川	<ul style="list-style-type: none">・放課後等児童デイサービス事業所との意見交換・「とことこフェスタ」にて、各機関紹介のパネル、特別支援学校の生徒作品の展示

連絡会	参加者	平成 26 年度 活動概要
グループ ホーム	荒 中瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・研修用 DVD を活用し、支援のあり方についての意見交換 ・ノロウイルス基礎知識や予防方法の勉強
日中情報 交換会	佐山 松木	<ul style="list-style-type: none"> ・「とつかエコー」「移動情報センター」の職員を招き、制度の概要や戸塚区の状況について伺った。 ・障害担当ケースワーカーや特別支援学校の教員との意見交換

(6) 相談自主事業の企画・実施

平成 26 年度に相談自主事業として「先輩ママが語る！～進路のこと・思春期のこと～」を開催しましたが、参加者よりいただいた「もっとテーマを絞って聞きたい」との声を受け、平成 27 年度も NPO 法人ゆうの風に講師を依頼し、「先輩ママが語る！～思春期と性のはなし～」というテーマで開催しました。

当日は 33 名の方にご参加いただきました。人には聞きにくい“性”について、女性・男性それぞれの先輩ママとしての経験談をざっくばらんにお話いただきました。参加者の方には、事前に講師に質問したい事を上げていただき、それに答える形で進めた事もありアンケートでも「知りたかった事を知ることができた」という声をいただいています。

(7) 学習・研修参加

相談員としての資質向上、能力・技術・知識（ケアマネジメント、コーディネート、カウンセリング等）の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No	開催		研修名	場所	参加者
	年	月			
1	平成 27年	5月	障害福祉支援者研修	横浜市総合リハビリテーションセンター	佐山 荒
2			舞クラス 「先輩ママのお話 ～思春期の性について～」	舞岡小学校	荒
3		7月	相談支援基礎研修	横浜市総合保健医療センター	荒
4		8月	鎌倉養護学校 夏期講座「支援につながる医療」	鎌倉養護学校	佐山
5			相談支援従事者 指導者養成研修	横浜市総合保健医療センター	若杉
6			生活保護制度入門	ウィリング横浜	荒
7			精神保健福祉基礎研修	横浜市総合保健医療センター	荒
8		9月	舞クラス「GH サンハイツ舞岡見学」	舞岡地区センター	荒
9		10月	知的障害児者とその家族の生活と 支援について	横浜市総合リハビリテーションセンター	佐山 荒
10			精神障害のある方へのかかわり ～統合失調症を中心に～	横浜市社会福祉センター	荒
11		11月	自閉症・発達障害のとらえ方と支援について	横浜市総合リハビリテーションセンター	佐山 荒
12		12月	ひばりセミナー「応用行動分析を活用しよう」	ひばりが丘学園	佐山 荒
13			ひばりセミナー「事例に学ぶ性的課題」	ひばりが丘学園	若杉 荒
14			障害分科会シンポジウム「とつかで暮らす」	戸塚区総合庁舎	若杉 荒
15			社会リハセミナー	横浜市総合リハビリテーションセンター	佐山
16			支援者対象講演会 「PWSの方との関わり ～PWS 集団外来について～」	横浜市健康福祉総合センター	若杉 佐山
17			自閉症の方へのかかわり	横浜市健康福祉総合センター	荒
18	1月	ひばりセミナー 「行き詰ったときのカンファレンス活用法」	ひばりが丘学園	佐山 荒	
19		法人地活看護師等巡回相談事業	東戸塚地域活動ホームひかり	若杉 佐山 荒	
20	2月	重症心身障害児者支援実務研修	横浜市開港記念会館	佐山	
21		障害福祉実践報告会	神奈川県社会福祉会館	佐山 荒	
22		KCN 研修	川崎市教育文化会館	若杉	
23		高次脳機能障害のある人への実践的な対応	横浜市総合リハビリテーションセンター	佐山	
24	3月	花みずき学習会 「成育歴から見る障害のある方のライフステージ」	新羽地域ケアプラザ	若杉 荒	
25		シンポジウム 「相談支援実践に求められるもの ～実践の継承と転換」	明治学院大学白金キャンパス	若杉 佐山 荒	

4. おもちゃ文庫事業

(1) 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計(上半期)
稼動日数	21	18	22	22	18	19	120
子ども	316	279	296	369	290	252	1802
親	285	255	280	307	251	239	1617
合計(月)	601	534	576	676	541	491	3419
平成26年度	533	613	695	912	842	805	4400

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(下半期)	合計(年度)
稼動日数	22	19	19	19	20	21	120	240
子ども	322	262	294	338	391	387	1994	3796
親	291	246	255	309	360	323	1784	3401
合計(月)	613	508	549	647	751	710	3778	7197
平成26年度	885	513	481	594	611	779	3863	8263

自己目的的行為である「遊び」という行為は、その行為自体が目的であると同時に、遊び手の自発性や自主性に支えられています。結果、そのような「遊び」のきっかけを作り、支え、膨らませる手助けをしてくれる「遊具」には、純粋な感動と多様な機能、そして普遍的な価値のあるテーマが求められます。

おもちゃ文庫の環境は、そのような「遊具」と「遊び」によって生み出される大人と子どもの学びの物語です。多種多様な利用が増える中、「遊び」を愉しもうとされている親子やリピーターの方々が見せてくれる柔軟な遊びの世界によって支えられているのが感じられました。

遊び手の自由で柔軟な発想から生み出された感動や発見、面白さや悔しさといったものを、皆で共有できる場(遊びによる地域のサロン)へ成長するとともに、改めて、おもちゃ文庫の持つコンセプトの重要性を再認識しました。

(2) 課題・検討事項

- ・遊具と遊びを介した子どもへの心理的寄り添いと距離感とのバランスが図られるように親育ちの支援を行いつつ、その上で、ソーシャルスキルとしてのコミュニケーションではなく、ライフスキルとしてのコミュニケーションに比重を置きました。また、遊びの中で「自分で考えて動く」支援を、各々のスタッフが、その支援技術を日々研鑽練磨しながら、継続して実施しました。その為にも、スタッフの遊びのソフト力の向上は必須であると感じます。スタッフ自身が全ての遊具を遊び込み、その機能を遊びで演出できるように努める等、良き学び手で在り続ける事が、普遍的な課題です。

(3) 遊具、絵本の整備

- ・常設遊具と入れ替え遊具の提供は、定着しました。今後も継続していきます。また、遊具・絵本の故障と整備は、随時実施しました。
- ・遊具の購入や導入は、テーマやコンセプトに沿った考察・試遊&選定・導入を実施しました。リピーターの皆様に愛されるように、出し方・魅せ方を工夫しながら（エンターテインメント性の追求）、今後も継続して実施していきます。

(4) 親子製作

季節の行事を大切に頂けるように、毎月ミニ工作を実施しました。父の日、クリスマスカード等や七夕笹飾り、節分・ひな人形等、好評いただきました。

(5) その他

地域交流事業として、おもちゃ文庫ご利用の親子参加で「工作とお話しの会」を年5回 実施しました。安全に配慮して、楽しく過ごすことができました。

5. 余暇活動支援事業

平成 27 年度は、計 32 回の余暇活動を実施しました。小学生対象が 8 回、中高生対象が 6 回、小中高生対象が 1 回、成人対象が 17 回でした。デイサービス利用者対象の土曜余暇を 6 回開催しました。上半期は、平成 26 年度に引き続き、応募者数の多い「テラスで晩ごはん」を、1 回増やし、応募者の増加に対応しました。一方、「屋上プール」は平成 26 年度に応募者数が少なかったため、平成 27 年度は、2 回減らし、6 回開催しました。下半期は成人対象のサークル余暇「サタデーぴかり」を前期・後期とに分け、計 6 回開催しています。また、小学生対象の外出を開催しました。

プログラム	開催日	募集対象	応募者数	当選人数	参加人数	欠席数	ボラ数
くっきんぐぴかり (前期) (計 4 回)	6 月 12 日	成人	20 名	5 名	5 名	0 名	3 名
	7 月 10 日				5 名	0 名	3 名
	9 月 11 日				5 名	0 名	3 名
	10 月 9 日				5 名	0 名	2 名
テラスで晩ごはん (計 4 回)	7 月 23 日	中高生	25 名	20 名	4 名	0 名	0 名
	7 月 30 日				5 名	0 名	2 名
	8 月 5 日				6 名	0 名	2 名
	8 月 19 日				5 名	0 名	3 名
屋上プール (計 6 回)	8 月 1 日 AM	小学生	23 名	23 名	4 名	0 名	0 名
	8 月 1 日 PM				4 名	0 名	0 名
	8 月 8 日 AM				3 名	0 名	0 名
	8 月 8 日 PM				4 名	0 名	0 名
	8 月 9 日 AM				3 名	0 名	0 名
	8 月 9 日 PM				4 名	1 名	0 名
みんなでカラオケ	9 月 5 日	成人	14 名	5 名	4 名	1 名	0 名
水族館へ行こう	10 月 10 日	中高生	12 名	5 名	4 名	1 名	0 名
サタデーぴかり (前期) (計 3 回)	10 月 31 日	成人	14 名	5 名	5 名	0 名	0 名
	11 月 21 日				5 名	0 名	0 名
	12 月 26 日				4 名	1 名	0 名
くっきんぐぴかり (後半) (計 4 回)	11 月 13 日	成人	21 名	5 名	5 名	0 名	4 名
	12 月 11 日				5 名	0 名	4 名
	1 月 15 日				5 名	0 名	2 名
	2 月 12 日				5 名	0 名	4 名
クリスマス飾りをつくろう (計 3 回)	12 月 23 日	小学生	8 名	5 名	4 名	1 名	0 名
	12 月 23 日	中高生	8 名	5 名	5 名	0 名	0 名
	12 月 23 日	成人	6 名	5 名	5 名	0 名	0 名
ほかほか鍋パーティー (計 2 回)	1 月 9 日	小中高生	13 名	5 名	5 名	0 名	0 名
	1 月 9 日	成人	15 名	5 名	5 名	0 名	0 名
サタデーぴかり (後半) (計 3 回)	1 月 23 日	成人	14 名	5 名	5 名	0 名	0 名
	2 月 20 日			5 名	3 名	2 名	0 名
	3 月 19 日			5 名	5 名	0 名	0 名
動物園にいこう	2 月 27 日	小学生	13 名	5 名	3 名	2 名	0 名

6. 地域交流事業

(1) 貸室利用実績

【平成 27 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	29	28	23	24	19	30	30	30	26	24	28	20	311
利用人数	279	296	238	234	161	271	312	295	238	217	291	179	3011

【平成 26 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	31	26	27	33	20	34	32	31	22	20	25	28	329
利用人数	309	247	264	319	192	348	363	319	240	174	262	253	3290

(2) 体験参加型イベント

未就学の親子を対象に「工作とお話しの会」を5回、開催しました。

開催月	イベント内容	参加
5月	スクラップブック作り	6組
7月	七夕を楽しもう	6組
10月	親子でハロウィン	6組
12月	親子でクリスマス	6組
2月	大切な人へありがとう	5組

(3) 他施設・機関主催行事への参加

平成 27 年度は、東戸塚地域ケアプラザで開催された「ぷち・だがしや楽校」に初めて参加しました。

開催月	施設・参加行事
6月	平戸ケアプラザ(自主製品・パン販売)
7月	ゆうあい七夕祭り(自主製品・パン販売)
8月	ぷち・だがしや楽校(自主製品・クッキー・マドレーヌ販売)
10月	戸塚区ふれあい文化祭(作品展示)
11月	戸塚ふれあい区民まつり(自主製品・パン販売) ぷち・だがしや楽校(自主製品・クッキー・マドレーヌ販売)
2月	戸塚区障がい者美術館計画(作品展示)

(4) ひかり主催行事

平成 27 年度も 8 月に「ぴっかり夏祭り」、12 月に「冬フェス」を開催しました。

毎年開催されている「ぴっかり夏祭り」は、地域での認知度も高まり、平成 27 年も沢山の方にご来場いただきました。区のマスコットキャラクターや地域密着型シンガーソングライターのミニライブ、大道芸や紙芝居など、幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけるようイベント内容を工夫しました。

平成 27 年度は、給食業者に依頼せず、職員による焼きそばの調理・販売を行いました。人員の配置や事前の準備などが、来年度の課題となりました。

「冬フェス」は平成 27 年度で 6 回目の開催となりました。ひかりで開催される冬の音楽イベントとして定着してきました。平成 27 年度も地域交流室を飲食スペースにするとともに、ステージの様子をテレビ中継することで、たくさんの方にコンサートを楽しんでいただきました。

回収されたアンケートには「楽しかった」「毎年楽しみにしている」等、好感触な意見が多く寄せられました。

7. 各委員会

(1) 広報委員会

平成 27 年度は、2 回広報誌を発行しました（4 月・9 月）。夏祭りなどのイベントの報告や余暇活動の紹介、地域活動支援センター ラフォーレさくらの記事など内容も多岐に渡る構成を心掛けました。また、夏まつりの告知ポスターやハガキの制作を行い、ホームページは、社会福祉法人ひかりのホームページを作成し、その中に東戸塚地域活動ホームひかりのページを設ける形で、3 月末にリニューアルしました。

(2) 保健・衛生委員会

平成 27 年度も引き続き、職員・利用者の健康診断を企画しました。宿直業務のある職員については、年 2 回の健康診断を行いました。その他には、健康保全の観点から、法人地活の看護師等巡回相談事業「食」の基本（障害者施設における対応について）という研修をひかりで開催しました。

夏季には熱中症対策として、送迎車内に経口補水液を常備しました。また、冬季には職員・デイサービス利用者を対象に、インフルエンザの予防接種や 11 月から 3 月までの間に検温を実施する事で、館内の感染予防に努めました。

月 1 回業者に委託して行われる全館清掃について、業者と打ち合わせをしました。

委員会としての活動内容に大きな変更はありませんでしたが、備蓄薬の保存期限が薬によって違うため、備蓄薬の整備を行うことが来年度の課題となりました。

(3) リスクマネジメント委員会

平成 27 年度も引き続き、事故報告書提出の流れを変更しました。グループウェア（サイボウズ）にて全職員に周知するようにし、提出の流れがより円滑になるようにしました。

避難訓練に関しては、9 月と 3 月に実施し、夜間時の避難訓練を 1 月に実施しました。9 月の避難訓練では、火災を想定した訓練と共に、消防署の方に消火器や AED の使い方の講習を職員が受けました。3 月の避難訓練では、9 月の課題を踏まえ、再度火災を想定した訓練を行いました。夜間時の避難訓練では、地震と火災それぞれを想定した訓練を行いました。以上に加えて、11 月に防災研修を行いました。災害ボランティアステーション日本から講師の方をお招きし、ひかり職員としての心構えや求められる行動、判断のポイントについて学びました。

3 月 11 日に生活支援事業のショートステイ中に利用者が亡くなった件については、各職員が感じた事等の率直な意見を出し合う場を設けて、共有しました。

(4) 給食委員会

平成27年度も引き続き月に1度委託業者と会議を行い、利用者に関する情報交換、メニュー内容の充実、行事の際の食事内容等について検討しました。

11月に委託業者の主となる調理師が変更となり、しばらくは食形態や食事提供方法などに関して今まで通りにいかない事もありましたが、その都度情報伝達する事で概ね改善されました。

2か月毎に募集するリクエストメニューも継続し、利用者の希望するものをメニューに反映しました。また、利用者のアレルギーや食形態の見直しを行い、食札の更新・作成をしました。

II. ラフォーレさくら

はじめに

平成 27 年度は、一人ひとりが自発的な活動に結びつくよう新しい経験を大切にしながら、楽しく安心して活動できる場として運営してきました。年齢構成が 10 代～60 代と幅広い中、日常的な健康面への配慮をしつつ、地域の中での役割も意識しながら、様々な課題と向き合ってきました。地域や関係機関との連携や情報共有するとともに、助言や協力を得ながら、利用者とともに少しずつ歩みを前に進めることができた 1 年となりました。

1. 利用実績（定員 20 名 在籍人数 17 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	21	18	22	22	18	20	21	19	20	17	22	22	242
延利用者数	244	208	262	266	214	233	232	221	212	181	213	227	2713
利用人数/日	11.6	11.5	11.9	12.0	11.8	11.6	11.0	11.6	10.6	10.6	9.6	10.3	—
送迎利用人数	22	16	25	36	43	49	43	34	37	32	41	54	432

平成 27 年度は、男性 8 名、女性 9 名の 17 名スタートでしたが、他施設へ移られた男性 1 名と自宅療養となった女性 1 名が退所となりました。8 月より養護学校卒業女性 1 名と 3 月より新卒男性 1 名が加わりましたので、入れ替わる形となり変わらずの在籍人数となりました。

利用者については、体調不良や手術のため入院となった利用者も数名おりましたが、必要に応じて通院同行をし、現状の把握や関係機関との情報共有など連携をしながら支援を行いました。

精神的不安定などにより毎日通えなかった利用者も数名いましたが、他施設長や障害者支援センター職員を交えた会議を定期的に行い、アドバイスを受けながら対応してきました。また、自立支援協議会、医療、行政とカンファレンスを行い、保護者やご本人との意見交換をするなど、通所への道を検討してきました。

2. 日中活動

(1) 作業・工賃について

平成 27 年度は、新鮮卵の販売、自動車部品や消しゴムの袋詰めなどの下請け作業、機織りや縫製、編み物などの自主製品販売を行ってきました。工賃収入の減少に対応しながらも、年度末には賞与を支給することができました。

卵販売については、地元での販路が定着し、手書きで作る販売日のお知らせや卵ケースなども好評で、新規顧客の予約も入るようになりました。また、挨拶を交わしながら行っているポスティング作業も職員を含め利用者の事を知っていただく、顔見知りになるきっかけとなっています。

下請け作業として、消しゴムその他の袋詰めや、自動車部品の作業を行っています。正確さが求められる作業も依頼業者の協力を得て練習を行い、今では、ほぼ全員ができるようになりました。また、自主製品として、編み物などの新製品に積極的に参加する利用者が増えました。編み機を使用する事によって、男性利用者も行うようになり個性豊かな色彩の商品が完成しました。

(2) 生活プログラムについて

余暇活動として、6 月は、収穫体験で採ってきた梅の実を使い、シロップ作りを行いました。新しい活動に繋げていけるような体験を目的に行った梅シロップ作りは、収穫に参加できなかった人も含め皆で楽しみながら無事終える事ができました。梅ジュースや梅ジャムにアレンジし、おいしい夏バテ対策となりました。

7 月からは、定期的に蕎麦打ち体験教室を開催しました。20 年来、蕎麦打ちが趣味というボランティアさんに講師をお願いし、小グループに分かれて体験しました。また、他施設の利用者や職員にも参加していただき、楽しい地域交流のひとつとなりました。回を増すごとに、工程の流れが身に付き包丁使いにも慣れたようで、12 月の忘年会では、年越し蕎麦を打ち皆で堪能しました。

10 月には、ディズニーマー、1 月にはマザー牧場と利用者会議で計画された日帰り旅行も無事に終える事ができました。利用者の希望や要望をふまえるため、小グループに分かれての行動には、まだまだ問題はありますが少しずつ改善されている傾向にあります。

創作活動として、障害者支援センター自主製品開発・制作支援事業の助成金を受け、ラフォーレさくらのオリジナル製品となるような作品作りを模索する機会をいただきました。定期的に押し花教室を開催し、種から花を育て、自然の草花も使用し、摘んで、独自の乾燥機にかけ押し花を作製しました。できあがった押し花を使用し、近隣の中学校や養護学校の体験教室でキーホルダー作りを行い、利用者がアドバイスをする姿も見受けられました。

クラフト教室、七宝焼き教室などの文化教室を定期的に行い新たな体験となりました。

開催年月	プログラム内容
平成 27 年	4月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・けんこう講座 ・お花見 ・調理実習（餃子作り・柏餅作り）
	5月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・けんこう講座 ・調理実習（すいとん）
	6月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・けんこう講座 ・南区交流ディスコ大会 ・テーブルマナー教室 ・体験教室（梅狩り／輪ゴムから作るブレスレット作り）
	7月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ体験 ・体験教室（蕎麦打ち） ・調理実習（スパニッシュオムレツ）
	8月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ体験 ・ひかり夏祭り ・体験教室（蕎麦打ち／ピータッチアート）
	9月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ体験 ・体験教室（蕎麦打ち） ・他施設見学（めぐカフェ）
	10月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ体験 ・日帰り旅行（ディズニーシー） ・横国大給食体験 ・体験教室（蕎麦打ち／クラフト）
平成 28 年	11月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ体験 ・体験教室（蕎麦打ち／クラフト） ・映画鑑賞（南公会堂）
	12月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ体験 ・体験教室（七宝焼き） ・忘年会（年越し蕎麦を作ろう）
	1月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・けんこう講座 ・初詣（弘明寺／若宮神社） ・日帰り旅行（マザー牧場） ・体験教室（クラフト）
平成 28 年	2月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ体験 ・南区交流M1グランプリ ・体験教室（クラフト）
	3月 ・機織り講習 ・押し花教室 ・レクホールスポーツ体験 ・体験教室（クラフト） ・調理実習（ちらし寿司） ・カップヌードルミュージアム見学

3. 救命講習・防災訓練について

9月と2月に行われた防災訓練に参加しました。一時避難場所となっている公園へ集まり安否確認や点呼をした後、地域防災委員誘導の元、住民の方々とともに指定避難所へ移動し、消火活動、救助活動、煙幕、起震車体験など大規模訓練に参加しました。また、防災拠点訓練では、非常電話や簡易トイレの説明を受け、発電機操作や貯水槽の見学、体育館のスペース作りなど、いずれも貴重な体験をすることができました。

4. 地域交流について

地域交流として、防災訓練、けんこう講座、などに参加しました。イベントへの協力や設備提供、体験教室などの行事を通し地域住民や他施設との相互理解の構築への一歩となりました。また、10月に行われた横浜国立大学付属特別支援学校の給食体験では、卵販売の一環で納品している卵が、どのようなメニューで提供されているのか？など、利用者の意見を運営委員会で報告をしたところ、役員の配慮により実現されました。そして、ただ食べるだけではなく、各学年のクラスを利用者が回り、納品している卵についてのプレゼンテーションを行い、生徒より出た質問に答えるなど新しい形の交流の機会をいただきました。

開催年月	行事	場所	参加者	
平成 27 年	5月	けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター 南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 スマイルクラブ	
	6月	南区交流ディスコ大会	南福祉ホームむつみ	南区作業所連絡会
		けんこう講座 (エアロビック)	南スポーツセンター	南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 神奈川エアロビック連盟
		輪ゴムから作る ブレスレット教室	ラフォーレさくら	めざみ工房(利用者・職員)
	7月	けんこう講座 (バリアフリーテニス)	南スポーツセンター	南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課
	8月	蕎麦打ち体験教室	ラフォーレさくら	ぼれぼれ(利用者・職員)
	9月	けんこう講座 (エアロビック)	南スポーツセンター	南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 神奈川エアロビック連盟
		蕎麦打ち体験教室	ラフォーレさくら	ぼれぼれ(利用者・職員)
		本大岡地区防災訓練	中島町公園	本大岡地区社会福祉協議会 地域住民
	10月	赤い羽根募金街頭活動	弘明寺商店街	南区作業所連絡会 南区社会福祉協議会
		給食体験	横浜国立大学付属 特別支援学校	横浜国立大学付属特別支援学校 (生徒・職員)
	11月	けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター	南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 地域住民
		収穫祭	大岡小学校	本大岡地区社会福祉協議会 地域住民
		映画「39」窃盗団	南公会堂	南区地域自立支援協議会 地域住民

開催年月	行事	場所	参加者
平成27年	12月	障害者未来を考える集い	横浜公園 市内作業所・活動ホーム グループホーム・当事者・家族・職員
		おみせサンタ	弘明商店街 南区社会福祉協議会 商店街周辺住民 はぐはぐの樹（利用者・家族）
		けんこう講座 （エアロビック）	南スポーツセンター 南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 神奈川エアロビック連盟 六ッ川中学校（生徒・職員）
平成28年	1月	けんこう講座 （チューブ体操・球技）	南スポーツセンター 南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 スマイルクラブ
	2月	M-1 グランプリ	南スポーツセンター 南区作業所連絡会
		防災拠点訓練	大岡小学校 本大岡地区社会福祉協議会 地域住民
		中島町 3.4 防災訓練	中島町公園 地域住民

5. 他機関との連携

ご家族や、担当ケースワーカー、グループホーム職員との情報共有や現状の把握、医療機関や行政などとの連携を深め、定期的なカンファレンスを行いました。また、事務局会議や運営委員会などを通し、地域自立支援協議会に関わる他の支援者など、様々な立場の方々との意見交換を行いました。

6. 学習・研修参加

支援に対する疑問や悩み捉え方も三者三様のため、研修会や学習会へ参加する機会をいただき、職員の資質向上に努めました。

開催月	研修・講演会名	場所	参加者
平成27年	5月	地域生活支援の実践について	開港記念館 阿部 富田
		自閉症の人たちのゆりかごから墓場まで ライフステージごとのイベントとその対応	横浜ラポール 阿部 富田
	6月	基礎から学ぶ知的障害とダウン症の理解	しんよこはま 地域活動ホーム 阿部 富田

開催月	研修・講演会名	場所	参加者	
平成 27 年	8月	自閉症や知的障害のある方の コミュニケーションに関する研修会	横浜ラポール	西垣
		仲間の笑顔を作る作業所 あまね作業所 32年から仲間の未来を考える	横浜市スポーツ 医科学センター	阿部 富田 西垣
	9月	自分の意思をうまく伝えるには？ 支援者支援の視点からのアサーション入門	新羽地域 ケアプラザ	阿部 富田 西垣
	10月	成人期の発達障害の人たちの 生活支援のポイント	港南区 社会福祉協議会	阿部 富田 西垣
	11月	セルフマネジメント研修	ウィリング横浜	阿部
		発達障害の人たちとの語り合い	港南区 社会福祉協議会	阿部 富田 西垣
	12月	理学療法士から学ぶ移動介助技術	ウィリング横浜	富田
		グリーフケア入門 親なきあとの支援のひとつとして	新羽地域 ケアプラザ	阿部 富田
		自閉症の人たちとの出会い 自閉症の人たちに魅せられて	港南区 社会福祉協議会	阿部 富田 西垣
		当事者の恋愛と性	南福祉ホームむつみ	阿部 富田 西垣
平成 28 年	1月	アスペルガー症候群の人たちはどんな人 私の臨床経験・関わりから	港南区 社会福祉協議会	阿部 富田 西垣
		障害児者のこえ わたし達障害者を理解して下さい	大岡地区センター	阿部
	2月	自閉症の特性に配慮した余暇活動の取り組み方 自閉症の人との楽しみ方	港南区 社会福祉協議会	阿部 富田 西垣
		医療機関との連携のすすめ方	ウィリング横浜	阿部
		てんかんの基礎知識とその対応方法について	横浜市健康福祉 総合センター	阿部
	3月	人を支援するとはどのようなことか？ 明日からの支援のヒントがそこに	波止場会館	阿部 富田 西垣
成育歴から見る障害のある方のライフステージ 聴きとる際のポイントを知る		新羽地域ケアプラザ	阿部 富田	

7. その他

利用者からの希望により、蕎麦打ち体験や文化教室を通し施設交流の機会を設け、他施設二か所の参加がありました。また、ラフォーレさくら以外の活動を知り、色々な可能性を広げていこうと取り組んできた他施設見学も『将来的にはやってみたい仕事』という意見も出て、利用者の良い刺激となりました。

Ⅲ. 後見的支援センターとつかエコー

はじめに

平成 28（2016）年 4 月で、障害者自立支援法（現：総合支援法）が施行され 10 年となります。総合支援法という名前に変わったものの、本質的な改善は未だされていません。一方で、新しい制度の制定や、新規事業者の参入は続いており、障害者の生活を支えるサービス体系は充実してきているように見えます。

以前から、“制度の谷間”になり福祉サービスの対象にならない方の存在は認められていましたが、サービス体系が充実すればするほど、こうしたサービス体系に乗らない方、乗りづらい方の生きづらさは強まっているように感じます。

横浜市独自の制度である後見的支援制度の運営を開始して一年が経過しました。上記の理由から、自治体独自の制度は、国の制度を補完するという意味がより大きくなっていると考えています。

この制度は、直接的・具体的な支援を行うものではないため、他の制度や地域との連携を意識して初年度の事業に取り組みました。

1. 組織体制

平成 27 年 3 月の事業開始に向けて、2 月からあんしんサポーター 2 名（週 3 日）を採用し、4 月から常勤のあんしんサポーターを 1 名採用しました。

担当職員、推進法人から戸塚区に配置されるあんしんマネージャーと合わせて、全 5 名のスタッフで、事業を運営しました。

2 月採用の 2 名のサポーターは、福祉職未経験のため、「ラフォーレさくら」での現場実習を行いました（4 月）。

サポーターの単独活動が始まる 7 月頃までは、職員ごとの業務量にバラつきがあったため、広報作りやファイル整理などを分担し、スタッフ全員で業務・支援室運営を行うよう努めました。

7 月以降は、“後見的”支援に関することはマネージャーが、その他の事は担当職員が責任を持つことを基本に、細かなことでもきちんと合意形成を行いながら進めました。

2. 日常業務

（1）後見的支援業務

登録者数：30 名（平成 28 年 3 月末現在）。内訳は別表 1 の通りです。

登録者・家族との面談は基本的に一人あたり月 1 回のペースで行いました。直接・具体的な支援を行う制度ではないこともあり、ご本人との関係ができるまでにはある程度の時間が必要です。

ただ、ご家族から得られる情報は、他のどんな事業よりも多いと感じています。

また、次の面談までの間に、スタッフ間で情報を共有し、意見交換を行うことで、より具体的・立体的にその方を把握するように努めました。

初回面談・登録までは、あんしんマネジャーと担当職員で面談を行い、登録後はあんしんマネジャーとあんしんサポーターで面談を行いました。数回面談を重ね、必要な情報が集まったところで後見的支援計画を作成・提示し、その後はあんしんサポーターの単独での面談・訪問活動となります。

サポーターの仕事は、単に話を聴くということではなく、

「受け止められている安心感の中で、本音を言ってもらおう」

「言葉そのものだけでなく、その裏にある“想い”を聴く」

「その“想い”を自分の中で消化し、他のスタッフに伝える」

ということであり、事業開始前の想定よりも、その重要性が非常に高いことがわかってきました。

(2) 会議

スタッフが全員揃う日が水曜日のみのため、第2・第4水曜日に支援会議、それ以外の水曜日に職員会議を設定し、ほぼ毎週開催しました（支援会議－支援経過確認、支援計画策定－21回、職員会議－各種状況確認、面談振り返り等－28回）。

支援会議には、管理者、横浜市マネジャーにも参加していただきました。

前述の通り、登録者への支援を担当サポーター任せにせず、全員で共有した上で、一人ひとりの人物像をリアルに把握するため、会議だけではなく毎朝の打合せ時に前日の面談の振り返りを行いました。

外部会議としては、公式な会議である＜合同代表者会議＞＜合同担当者会議＞＜マネジャー会議＞の他、担当職員だけで情報交換を行う＜担当職員連絡会＞に参加しました。

(3) 説明会

平成27年度は、別表2の通り、制度の説明会を実施しました。

初年度ということもあり、制度の仕組みや概要の説明が中心でしたが、次年度以降は、事例も交えつつ、より制度の活用をイメージしやすい説明を行います。

“あんしんキーパー”開拓（地域での見守り支援作り）は、この制度の重要な柱ですが、説明会としては1度だけしか行いませんでした。登録者一人ひとりに合った“見守り”の形を吟味しつつ、継続して取り組みます。

(4) 地域連携（他機関との連携）

初年度は、地域連携が目に見えて進んだということはありませんでしたが、まずは制度を知って、利用していただくことを目指し、他機関との連携に重点を置いて取り組みました。

『戸塚区社協』には、“後見的支援担当職員”を設置していただき、制度を意識していただくことで、＜地区社協連絡会＞や＜サポートネット＞での説明会の実施につなげることができました。

さまざまな専門職が配置されている地域ケアプラザですが、平成27年度は特に『原宿』『上倉田』の両ケアプラザの“地域交流コーディネーター”との連携を強め、両ケアプラザでの説明会を開催し、参加者のうち2名の方が登録となりました。

年度後半は、社会福祉士職向けの説明会を行い、年度末以降こちら経由の問合せが増えています。

『戸塚区地域自立支援協議会』では、引き続き事務局に参画するとともに、＜地域を創る分科会＞に担当職員・マネージャーが参加し、顔の見える関係づくりを行いました。また同会の＜日中活動連絡会＞で制度説明を行いました。

ドリームハイツ内の住民活動である『ふらっとステーション・ドリーム』には、説明会やあんしんキーパー依頼を行うなど、何度か足を運んで関係作りを行いました。大きな集合団地内の重要な拠点であるため、今後も良好な関係を継続し、対象者の掘り起こしや登録者の見守り支援につなげたいと考えています。

(5) その他

・他区支援室との連携

先行区より、3名の方が移管での登録となりました。移管にあたっては、登録者・家族の了解の上で、支援室同士で事前に情報の引継ぎを行いました。

他区支援室とは、サポーターが業務の進め方について、担当職員は当制度の課題などについて適宜情報交換を行いました。

推進法人の『障害者支援センター』から貸与された自転車が、サイズの関係でビルのエレベーターに乗らなかったため、港北区の支援室『さぽーと・うみ』と交換していただきました。

・広報紙

年間4回（6・9・12・3月）、広報紙を発行しました。

読みやすく、支援室の雰囲気が伝わる内容を基本に、関係者の方に原稿を依頼したり、区内事業所を取材させていただいたり、広報紙作りを通じた関係機関との連携作りを行いました。

後見的支援センターとつかエコー 平成 27 年度事業報告（別表 2 説明会実施状況）

実施日	実施場所	実施目的	備考
4 月 23 日	原宿地域ケアプラザ	制度案内	原宿地域ケアプラザ主催学習会(家族対象)
5 月 13 日	リーふ東戸塚	制度案内	NPO 法人風の音保護者会
6 月 10 日	ハートフルリテラ	制度案内	(株)就労 B 型利用者・家族対象
6 月 23 日	フレンズ戸塚(区社協)	制度案内	地区社協分科会
7 月 4 日	スマイルワークス	制度案内	(株)就労 B 型家族対象
7 月 23 日	戸塚区自立支援協議会	制度案内	「日中(活動)情報交換会」
8 月 20 日	港北区社協(社会福祉士会港北支部)	制度案内	「さぽーと・うみ」(港北区)と合同で実施
9 月 14 日	フォーラム(男女共同参画センター横浜)	制度案内	区社協主催「福祉のしごとフェア」
11 月 7 日	ふらっとステーション・ドリーム	制度案内	当事者・支援者対象 「しーど」(泉区)と合同で実施
11 月 12 日	フレンズ戸塚	制度案内	「J ネットかしおぺあ」学習会
12 月 17 日	上倉田地域ケアプラザ	制度案内	上倉田・下倉田・南戸塚 CP 合同の学習会 「就労支援センター」「後見的支援制度」の紹介
2 月 9 日	戸塚区役所	制度案内	戸塚区高齢・障害・生保等 CW 会議にて 戸塚区自アシ(知的・精神)と合同で実施
2 月 12 日	ふらっとステーション・ドリーム	キーパー依頼	「しーど」と合同で実施
2 月 16 日	戸塚区役所	制度案内	「戸塚区地域包括支援センター社会福祉職連絡会」 戸塚区自アシ(知的・精神)と合同で実施
2 月 18 日	瀬谷活動ホーム太陽	制度案内	権利擁護についての家族座談会
3 月 8 日	フォーラム(男女共同参画センター横浜)	制度案内	区社協主催「福祉のしごとフェア」
3 月 11 日	フロンティア(生活介護事業所)	制度案内	ケース会議の対象家族に対して
3 月 16 日	東戸塚地域活動ホームひかり	事例報告	活動ホーム職員対象